

- 問1 「（空欄）…、諸行無常の響きあり」という一節で始まる、平氏の滅亡を描いた物語を何という？
- 問2 十字軍の遠征が活発に行われた時期は、日本の歴史ではどの時代にあたる？
- 問3 鎌倉時代に新しい仏教の一派である「時宗」を開き、布教活動を行った僧侶を何という？
- 問4 13世紀後半、モンゴル帝国による二度の襲来を受けた出来事を何という？
- 問5 武士が主従関係において、自分の仕える相手のことを何という？
- 問6 法然が開いた浄土宗が拠点とし、教えを広めた場所はどこ？
- 問7 元軍の再来に備えて、北条時宗が博多湾岸に築かせた防壁を何という？
- 問8 『枕草子』や『方丈記』と並び、日本文学における重要な3つの随筆をまとめて何という？
- 問9 鎌倉時代初期に焼失したあと、源平の戦いの後に再建された奈良にある有名な寺院を何という？
- 問10 鎌倉幕府において、将軍と主従関係を結び、軍事や行政の実務を担った武士を何という？
- 問11 元軍の再襲来に備えて鎌倉幕府が博多湾の沿岸に築いた、石造りの防壁を何という？
- 問12 鎌倉幕府の中央に置かれた主要な機関で、政所や侍所と並び、裁判などを担当した組織を何という？
- 問13 鎌倉時代後半、分割相続によって領地が細分化し、経済的に苦しくなった状態を何という？
- 問14 元寇に備えて博多湾岸に築かれた、石造りの防壁を別名で何という？
- 問15 鎌倉時代、日蓮が開いた新しい仏教の一派を何という？
- 問16 鎌倉時代に時宗を開き、踊り念佛で教えを広めた人物は誰？
- 問17 13世紀にモンゴル高原を中心に勢力を拡大し、フビライ・ハンが建てた帝国を何という？
- 問18 鎌倉時代に日蓮が唱えた「題目を唱えるだけで救われる」という教えにより、支持を集めた対象となった人々を何という？
- 問19 1281年にモンゴル帝国が二度目に日本へ襲来した戦いを何という？
- 問20 鎌倉幕府の御家人が、軍役として警備を担当した場所をどこ？
- 問21 『徒然草』のように、筆者が日々の出来事や感じたことを自由に書き留める文学形式を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 祇園精舎の鐘の声	『平家物語』は、この冒頭のフレーズが示す通り、栄えたものも必ず衰えるという「諸行無常」の思想を根本に置いています。鎌倉時代に成立したこの物語は、個人の生きざまや戦の悲哀を鮮明に描き、当時の文学としての到達点を示しました。
問2	答え 鎌倉時代	十字軍が始まった1095年は日本で院政期（平安時代末期）にあたりますが、戦いが本格化した12世紀から13世紀にかけては、ちょうど鎌倉幕府が成立し、発展していく時期にあたります。
問3	答え 一遍	一遍は浄土教の一派である時宗を開きました。彼は諸国を旅しながら、念仏を唱えて踊る「踊念仏」や、念仏を記した札を配る「賦算（ふさん）」といった活動を行い、身分を問わず広く信仰を集めました。彼の活動記録は「一遍上人絵伝」として残されています。
問4	答え 元寇	1274年の「文永の役」と、1281年の「弘安の役」の二度にわたり、元軍が日本に襲来しました。幕府は御家人を動員して防戦し、九州各地で激しい戦いが繰り広げられました。特に弘安の役では、日本側が築いた石築地などの防衛と暴風雨も重なり、元軍は退却しました。
問5	答え 主君	主君は、鎌倉幕府においては将軍であり、家臣である御家人に対して領地の保護（御恩）を保証する存在です。御家人は、この主君のために命をかけて戦ったり、警備などの務め（奉公）を果たしました。この強固な関係性が、鎌倉幕府を維持する大きな力となっていました。
問6	答え 吉水	吉水は法然の住居があった場所であり、ここを中心に念仏の教えが貴族や民衆にまで広く伝わっていきました。当時の仏教界は厳しい戒律や修行が主流でしたが、法然はここを拠点として、誰もが実践できる「専修念仏」を説き続けました。
問7	答え 石築地	執権・北条時宗は、博多湾の海岸線に沿って高さ約2メートルにも及ぶ石の壁、石築地（元寇防壁）を築かせました。これは騎馬武者が元軍の上陸を食い止めるための強固な障壁として機能し、後にくる元軍の再襲来（弘安の役）で大きな効果を発揮しました。
問8	答え 三大随筆	『枕草子』（清少納言）、『方丈記』（鴨長明）、『徒然草』（吉田兼好）の3つを総称して「三大随筆」と呼びます。それぞれ平安時代中期、鎌倉時代初期、鎌倉時代末期に執筆されました。
問9	答え 東大寺	鎌倉幕府の協力のもと、重源という僧が中心となり、東大寺の再建が進められました。全国から寄付を募り、当時の最高の仏師たちによって多くの仏像が新造されました。南大門の金剛力士像はその象徴として制作されたものです。
問10	答え 御家人	御家人は、将軍から領地を安堵される「御恩」を受ける代わりに、戦時の軍役や京都・鎌倉の警備といった「奉公」を義務付けられました。彼らは幕府の制度を支える重要な存在であり、北条氏などの有力御家人は幕府の政治運営においても中核を担いました。
問11	答え 防壁	幕府は北九州の御家人たちに命じ、博多湾の海岸沿いに石造りの長い防壁を築きました。これが「防壁」です。元軍の上陸を困難にさせる防御施設であり、当時の武士の軍事動員体制を示す重要な遺構です。
問12	答え 問注所	問注所は、鎌倉幕府の中央機関の一つで、主に御家人の訴訟や裁判、書類の管理を担当しました。侍所が軍事・警察を、政所が一般政務を担当したのに対し、問注所は法律に基づく冷静な判断を行う機関として、幕府の権威を高める役割を果たしました。
問13	答え 困窮	限られた土地からの収穫だけでは、幕府への奉公や軍役の準備、生活費を賄うことが困難になり、多くの御家人が借金をして苦しい生活を送るようになりました。
問14	答え 防壁	防壁（石築地）は、博多湾岸に長さ約20kmにわたって築かれた石の壁です。これにより、元軍の得意とする騎馬戦術や集団行動を封じ込め、日本軍が待ち伏せや遠距離からの弓矢攻撃を行いやすい環境を作りました。鎌倉幕府の組織力と御家人の動員力が発揮された代表的な防衛事業です。
問15	答え 日蓮宗	日蓮が開いた日蓮宗は、法華経というお経の題目を唱える「南無妙法蓮華経」を重視しました。他の宗派を厳しく批判する強い姿勢が特徴で、時の権力者に対しても教えを説くなど、熱心な布教活動を行いました。
問16	答え 一遍	一遍は、踊りながら念仏を唱える「踊念仏」を行い、全国を旅して信仰を広めました。この教えは時宗と呼ばれ、形式にこだわらず、念仏を唱えることで誰でも極楽浄土へ行けると説きました。一遍が全国各地で念仏札を配ったことも、民衆の間で信仰が広まった大きな要因となりました。
問17	答え モンゴル帝国	五代皇帝フビライ・ハンは、都を現在の北京である大都に移し、中国全土を支配下に置くために国号を「元」と決めました。このモンゴル帝国は、東西の交通路を整備し、シルクロードを通じた交流を活発化させました。また、強大な軍力を持って周囲の国々に服属を要求しました。
問18	答え 民衆	日蓮の教えは、難しい書物を読まなくても「南無妙法蓮華経」と唱えるだけで良いというものでした。この分かりやすさと、社会の悪を鋭く批判する日蓮の態度は、日々の生活に苦しむ民衆に強く支持されました。この支持によって、鎌倉新仏教は急速に広まりました。
問19	答え 弘安の役	1281年、元軍は再び大軍を率いて九州へ攻め寄せました。これが弘安の役です。幕府は事前に築いていた防壁や備えによって防戦し、元軍の上陸を阻みました。また、暴風雨により元軍の船団が壊滅的な被害を受けたことで、幕府軍の勝利が確定しました。
問20	答え 京都	御家人の重要な軍役の一つに、京都の警備を担う「京都大番役」があります。これは、将軍の命令により一定期間、京都へ赴き治安維持を行うものでした。他にも鎌倉周辺の警備も担当しており、これらは御家人が将軍に対して奉公を果たす具体的な役割でした。
問21	答え 随筆	随筆（エッセイ）は、決まった形式に縛られず、個人の内面や世の中に対する洞察を記すものです。鎌倉時代には吉田兼好の『徒然草』が、平安時代の清少納言の『枕草子』と並ぶ代表的な随筆として知られます。